NPO法人
森を再生する会 会報

第21号
2010.8.1
発行

豊かな森を守ろう！ 取り戻そう！

目次

・春の植樹祭を終えて　1P ～5P
・アンケート結果　6P
・斉藤和彦さんを偲ぶ　7P～8P

春の植樹祭を終えて

NPO法人森を再生する会　会長　神谷輝幸

今年は場所を変えて、作手高原の山で春の植樹祭を行いました。2003年秋から始めた植樹祭も今回で14回目、植樹本数は7,290本になりました。

天も味方！

出かけるときの天気予報は荒れ模様の雨でした。しかし、現地で植樹祭が始まる時間になると雨がやんできました。参加者で登山道を人の鎖状に並んでもらい、リレーで苗木を山に上げるとき雨はすっかりやんで作業にまったく支障がありませんでした。むしろ雨模様は苗木にとっては好都合でした。今年に限らず、不思議なことに私たちの植樹祭は雨が降っていても植樹の時間になるとやんでしまうという現象が続いています。

若者パワーで

今年の特徴は、毎年参加の安城学園高校の学生と七福醸造株式会社の若い社員がボランテイアで大勢参加していただいたことです。また、100名に上る参加者のうちリピーターが多く、作業が大変スムーズに行われ、600本の苗木はあっという間に植えることができました。毎年のことですが、老若男女が、そして遠くは東京から駆けつけて参加していただき、その熱意に感激です。こうした皆さんの熱い思いにより、植樹祭を大成功のうちに終えることができました。

生態系豊かな山に

植樹した場所は、戦後の拡大造林計画で植えられたスギ･ヒノキが手入れもされずに放置された荒れた山です。このまま放置すれば、スギ･ヒノキも材として価値がないばかりか、山自身が多様な動植物が生きることができない死んだ山です。その上、保水力のない死んだ山は大雨が降れば洪水や山崩れがおきます。今回植樹した苗木はこの土地に本来生えていたブナ、ミズナラ、コナラ、クリ、ヤマザクラなど17種類600本で

す。数年すればこの山に生態系が戻り、ここから豊かできれいな水が矢作川に流れ込むでしょう。

陰で活動を支えるスタッフ

忙しいところを参加していただいた NPO いのちの森づくり実行委員会理事長の中川暉国さんが挨拶の中で植樹祭の準備のため、どれほど陰で働いている人がいるかを自分の経験から話をし、スタッフの方の労をねぎらっていただきました。そのとおりだと思います。植樹祭は40分ほどで終わりましたが、その何十倍の時間と労力がかかっていることを忘れてはならないことであらためて感謝申し上げます。

植樹を終え、昼食は地元の食材で作った山菜おこわと特大五平餅、そしてスタッフが準備した具沢山の豚汁で楽しい会食を行いました。雨に備えて借りておいた研修施設で植樹祭の式典を終え、無事帰途に着きました。忙しい中、そして悪天候予報の中、多数の参加をいただき、皆さんの熱い気持ちに支えられて、植樹祭を終えることができ、誠にありがとうございました。

このような企画に始めて参加しました、人海戦術で楽しく植樹ができました。天候には恵まれなかったが人に恵まれ、環境活動の一端に参加できて良かった。

いつもと違った楽しさを味わいました。木が大きくなってくれる事を願っています。また次も参加させてくだ

有難うございました。小さな子供連れですが、皆さんとても親切にしていただいて、まったく不安なくすごせました。最初は子供たちも少し不安気でしたがすぐに楽しそうにしてい

健康の木の実をいっぱい拾いましょう

加藤由紀子

前日の 22 日。明日の天候を心配しながらの準備に作手は初めての為、風雨を予想しての思考を巡らせ、当日を 6 人で待機。

小降りの天候にバスで現地到着後、スタッフからの説明後、苗1、2本ずつの手渡しがスタッフ先導の元始まり、時間が掛かったものの、10 時 30 分頃より植樹開始となり、末尾にいた主人も体力不足で息切れしている中、16 本位植えてくれたようで、感謝、感謝。

苗 600 本の手渡し運搬作業は、24 歳の息子にはもどかしかったようで、「僕みたいな若者が7人位いたら簡単に運べたのに！！」と。「でも老若男女全員が参加できてよかったのでないかな」と、私が言うと笑っていました。

植樹後青年会館での昼食会。そして閉会式。外では雨の恵に木々も喜んでいてくれるようで、参加者の達成感の顔にホッと。一人の怪我も泣く無事完了して皆の協力に感謝。五平餅はじめ反省は色々ありましたが非常に楽しかったです。主人と息子達の参加が私にとって非常にうれしくて感謝、感謝。有難う！

追伸

あるご夫婦の会話

ご主人は魚釣りの趣味があり「俺の趣味は獲物をもちかえって来るから、家計に貢献しているが、お前の趣味は山。何もないではないか！」と。その通りですがその奥さんは、「山で健康という木の実を拾ってくるのよ！」

皆さん！　健康の木の実をいっぱい拾いましょうね　！

準備ご苦労様でした。雨を覚悟で参加しましたが, たいした降りもなくよかったです。もう少し植えれたかも・・・３０歳代

良いところで楽しく過ごさせてもらいました。登りのロープは助かりました。６０歳以上

初めて木というものを植えました。
花を植えるときと同じやり方で、植える間隔が狭いというだけなんだと感じました。安城学園エコボランティアの一員として協力して行きたいと思います。　学生

参加者の笑顔が何よりの喜び

長澤勇吉

数年前から“森を再生する会”に入会すると同時に、山で植樹の準備作業に参加して来ました。今までの会社務めの軟弱な身体を少しでも矯正しようとして素人である私は、田峰の山から転げ落ちそうになったりして、みんなの足手まといになっていました。口は達者ですが、仕事は出来ない見本みたいな人でしたが、今回作手の山で、田峰の山での下積み修行の花を開かせようと、一昨年から舞台づくりを 5 月 23 日に間に合わせるように頑張ってきました。

思い出したら涙が出てきますが。（なんと大げさな）登ったり、降りたり、一日の何回も、息絶え絶えでした。（私だけか？）

前日から上天気とまで言わないまでも、曇り空で雨は勘弁して欲しいと言う気持ちでしたが、残念ながら当日は雨でした。しかし苗木にとっては最高の雨。スタッフ一同雨具を着て頑張ればよいと気を持ち直して、役割を遂行しました。

こんなとき舞台づくりをしたスタッフにとって参加者の笑顔が何よりの喜びです。

昼食時には、600 本の苗木を植え終わった達成感や山菜おこわ、トン汁、五平餅が美味しさで、全員の笑顔が部屋に満ち溢れ、明るく愉しい一日でした。

植樹した苗木は、毎月第４日曜日に“森を再生する会”がお世話をいたしますのでご安心を。そして成長を楽しみにしてください。

準備が大変だったと思います。有難うございました。食事も大変おいしくいただきました。

添乗員の説明が不足していて、植樹のやり方がよく解らなかった。６０歳以上

木は神である！

杉浦良和

春の植樹。祭雨の日にもかかわらず多くの方々と愉しい時間をすごさせていただき大きなエネルギーを感じる事ができました事、誠にありがたく感謝いたします。

帰り道、道の両側斜面に木が根こそぎ倒れ、目を背けたくなるような無残な姿を見てきました。戦後荒れ果てた山に、先人達が苦労して植えたことを思うと誠に残念で悲しく

なりました。

　木そのものがダム。スギの若木の 80～90％が水なのです。森の木はすべての生物の父母なのです。そしてこの木が、森が地球環境を守ってきた事を昔の人は感じ取って、木を大切にしてきました。

　しかし今では、神である木を構造用資材として使うために、木の大切な養分や油分を高温の釜で搾り出し圧着しているのです。

このように自然と言うものを大切にしない現代の感覚は何かおかしいのでないでしょうか？

　矢作川のほとりで生まれ育ってきました。一時水が汚れて心配でした。それから矢作川流域に関する冊子を読み、森の大切さや、日本の山が荒れていることを知り、命の源である水の大切さや、自然の大切さを日々感じ

　森の大切さを実感しています。
　知らぬ間に自然破壊が進んでいます。少しでも早く食い止めなくてはいけないと思います。各団体と力を合わせて森を守る為にトラストを進め

山の中に入るのは久しぶり。　とても登れないと思ったが、ロープで最上部まで行け植樹ができた事はとて

　今回植樹した苗が生長した姿が楽しみ

指揮命令系統は1本に！６０歳以上
たいへんたのしかった！　小学

植え方の指導が人によりまちまちで、戸惑いました。
私たちはただ植えるだけでよいのか？もっとやれることがあるのではと考えさせられました。

春の植樹祭

三河のホビット（野村　幸示）

あいにく雨の植樹祭
老若男女うちそろい
開会式もうち捨てて
苗を抱えて一列に
両手に抱えて苗リレー
何回送るや先見えず
雨か汗かで体はびっしょびしょ
手もびっしょびしょ

山に登りて穴掘りだ
トング両手に　えっこらしょ
なるべく深く　よっこらしょ
泥をかぶって　どっこらしょ
土も軟らかく石もなく
たくさん掘ることできたかな

混植密植　千鳥にバラバラ
楽しく笑顔で助け合い
綺麗に苗が並んだよ
六百本の苗が並んだよ
みんな丈夫に育ってね

あとは楽しい食事祭
山菜おこわに豚汁だ
五平餅も付けまして
気分満タンお腹も満タン
話しも弾み知識も満タン

皆さんご苦労様でした
秋にもあるよ植樹祭
準備ばんたんまってて

山に行くだけで命の洗濯！！

高野政浩

定年後2年目の春、さて、これからどう過ごそうと、安城市の生涯学習の会に参加！！

ここの講座の 1 つに**「NPO森を再生する会」**の活動紹介があり、山育ちの小生にとって当時の記憶が働いたのか直ちに入会。以来、今回で 4 回目の**「春の植樹祭」**を迎えた。

これまで毎月第 4 日曜日、安城市の歴史博物館に8時集合、乗り合わせて出発、植樹祭が近づくと活動日が追加されるがその時元気かつ、特別用事が無ければかみさんに頼んでおにぎり 2 個とお茶を持って出掛ける。

山に着く迄の 1 時間余りは、下界の日常談議でガス抜き。山に近づくに従い木々の緑が目を休め、車窓からひんやりとした気の流れは思わず深呼吸で肺を浄化、山に着くと静かな沢の音に脈が休まり、透明なうぐいすの響きに耳が喜ぶ、しばらくすると手足がムズムズしてくるのだ。

春と秋の植樹祭に向けた準備のための日常活動は小生にとって「**山に行くだけで命の洗濯！！**」が出来るのだ。おにぎり二つと水筒だけで。

お待ちしております、この日常体験をお薦めしたいと・・…。

・苗木の搬送のリレー式がよかった。
・植樹のやり方とか苗木の名前等を紙に書いて説明して欲しかった。
・全体的に雰囲気がよかった。

現地での段取り大変有難うございました。これまでやっていただければ我々は植樹のみで大変助かります。感謝しています。

五兵餅が冷たくて、たれがべたべた落ちて汚れてしまった。火のかけ忘れだと思います。焦げ目もありませんでした。60 歳以上

あいにくの雨で残念で下。しかし山の空気を吸い込みながら５～6 本植樹でき良い経験が出来ました。

下準備が大変だったと思います。スタッフの皆様ご苦労様でした。楽しく植樹が出来

雨が降ったが植樹が出来て楽しい１日でした。また参加したいです。６０歳以上

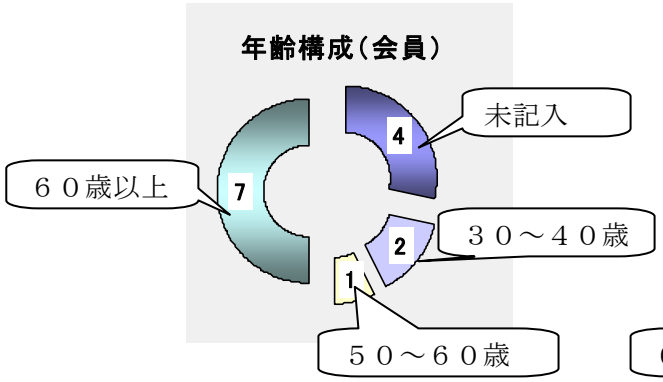
健康な水づくりに涙ほどですけれどお手伝いできたことをうれしく思います。６０歳以

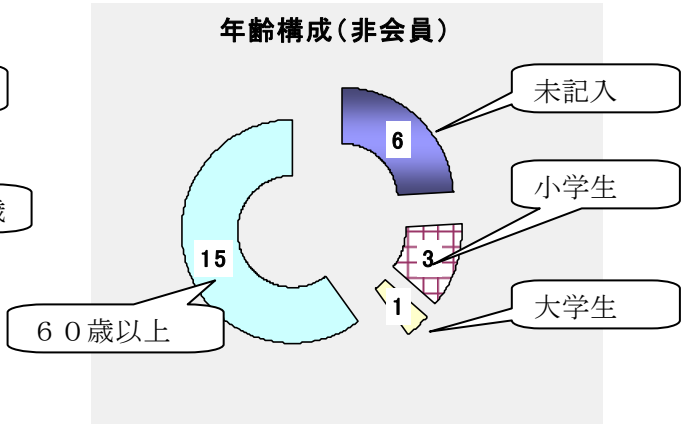
森の大切さがよく解りました。

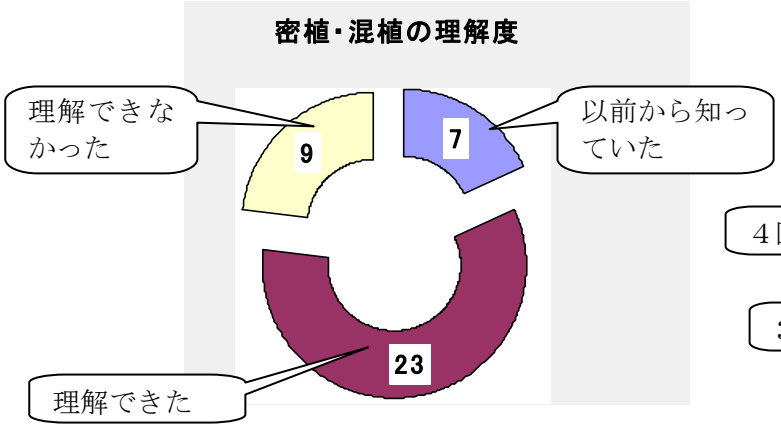
時間があれば第 4 日曜日に参加したいです。60 歳以上

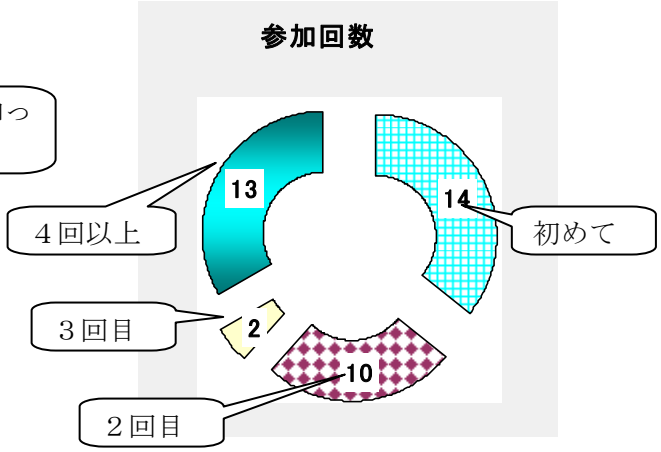
アンケート結果

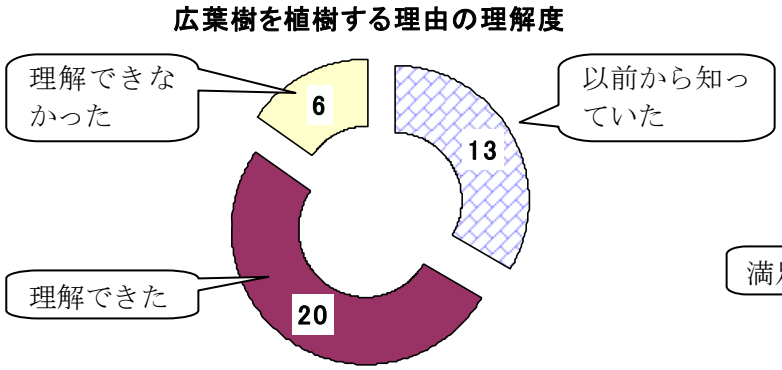
植樹参加者数合計　１０５人　　アンケート回答者数　３９人

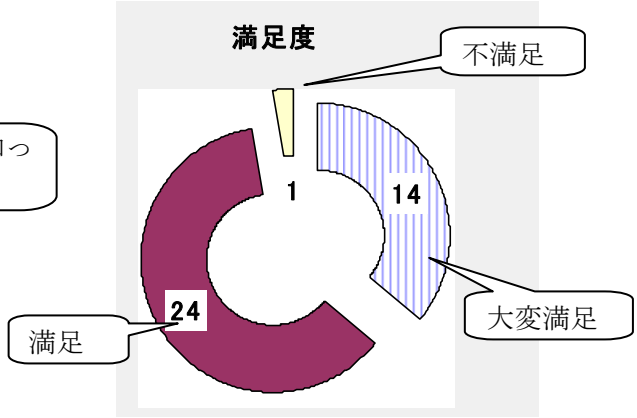












スタッフの反省

- バスの中で植樹に関する説明をより解りやすく実施したいと思います。
- ご指摘の内容をありがたく受け止めて、全員が満足していただけるよう今後も頑張ります。

斉藤和彦さんを偲んで

神谷輝幸

あのお元気な姿から、あまりの急な訃報が信じられません。今でも、どこかでひょっこり、あの精悍で人懐こい笑顔で姿を現されるような気がしてなりません。

その夜、娘さんから私に訃報の電話が入りました。思い起こせば、私たちが安城市箕輪町で炭焼きをやりたいと相談すると、斎藤さんはその娘さんを連れ立って、二人で1週間ほど安城に通っていただき、煙道、屋根、焚口などポイントなるところを奉仕の精神で仕上げてくださいました。おかげさまでこの窯を使った炭焼き活動は大きな反響を呼び、主要な新聞が大きく取り上げてくれ、その後も私たちの財産として形を変えて残っています。

斎藤さんの炭焼きに対する情熱は、持病を持ちながらもとどまるところがないことは誰でも知るところです。自らをドンキ・ホーテにたとえて、常に夢に向かって周囲に目もくれず突進されたバイタリテイからは病を抱えているとはまったく感じられませんでした。

NPO 森を再生する会が発足して間もないころ、水源の森づくりを提唱する私たちに、何もいわずに自分の山を提供してくれました。西川地区は確かに不便なところですが、斎藤さんの魅力に誰もが取り付かれ、スギ・ヒノキの山から広葉樹の山へと毎年、植林を続けました。斎藤さんの先祖様が植えたスギ・ヒノキを伐採し、雑木といわれる広葉樹を植えるのは心苦しいところがありましたが、多種類の広葉樹の中にヤマザクラをできるだけ配し、景観と同時に将来は、必ず用材としても価値のある山となるように斎藤和彦さんと共に水源の森づくりに挑戦してきたことは、私たちには何よりの思い出になっています。

斎藤さんは本当に突然私たちの前から姿を消されましたが、今ごろは、千の風となって大きな空を吹きわたっておられるのでしょうか。

心優しい働き者 斉藤和彦さん

大崎かおり

段戸に行けば、いつも笑顔で出迎えて下さった斉藤さん。感謝の気持ちでいっぱいです。
炭焼釜の作業や間伐、植樹祭、飲んだり語ったり、思い出は尽きません。

「捨て石になれ」や自分を「ドン・キホーテ」などと呼んで卑下されていました。でも、斉藤さんから受け継がれた炭焼は、多くの人にきっと永く引き継がれると信じます。

汗を流し、力強くよく働かれました…。やり残したことが多くて無念が有ろうかと思いますが、心安らかにと祈ります。

また斉藤家の皆さんが、日々穏やかに過ごされますようにと願います。

知多から 追悼に寄せて

斉藤和彦さんを偲ぶ

杉浦彦展

斉藤さんとは 10 年ほど前、斉藤さんの水神様の山小屋で初めて出会いました。そして今年の 2 月 27 日、名古屋の東別院で地元西川に昔懐かしい水車小屋を再現したいと未来に向かう話をされた姿が最後となってしまいました。

植樹祭や数々の会合でお会いしたとき、常に多様な樹木が繁茂する豊かな緑のダム造りを熱く語るいきいきとした表情を決して忘れる事はないでしょう。

思い起こせば、平成 16 年の秋の植樹祭を計画するとき、山と里の人々の中に海の人も参加してもらい、植樹する山に大魚旗を掲げようと提案されました。

斉藤さんと二人で、一色漁業組合の鈴木信治さんを訪ねたときも、豊かな森林は下流の河川と海に豊かな資源をはぐくむ事を熱心に話されました。そして、鈴木さんはその場で快諾されると同時に、出来る限り愛知県下の漁協にも協力を呼びかけると約束をしていただきました。（鈴木さんは愛知県漁業協同組合連合会の会長理事であった。）

そのときの植樹祭には、会場に数十の大漁旗がはためき、漁協、ボーイスカウト、大学の先生、歌手の「まのあけみ」さん、そして行政の人々も参加され約 300 人が集い、前日の前夜祭から大変な賑やかさで、斉藤さんは会場を走り回られ楽しい１日となりました。

また、漁協を訪ねた帰り道、一色町の“魚ひろば”の奥の寿司店に入り、店長お任せの旬の魚の寿司を食しました。その後、斉藤さんとお逢いすると、2 度 3 度と「あのときの寿司はうまかった。海もいいな！」と海への憧れを楽しく話された事を懐かしく思い出します。

20 歳代で会社を辞してふるさとの山に帰り、一生涯自然を愛し、多くの人々に夢を語り、実現すべく働き続け、我々を元気付けていただいた斉藤和彦さん。有難うございました。

心からご冥福をお祈り申し上げます。

合掌

斉藤和彦さんありがとう

野村幸示

NPO 森を再生する会の理事の斉藤さんがご逝去されました。大自然の力でおいしい水を作る事の出来る山、自然災害の起こらない山を私たちの子孫に残せるよう立ち上がった会です。

斉藤さんは炭焼きで山を再生したいという考えで炭を焼いておられた方で、10 年位前に植樹祭に参加したのが始まりでした。

その後「NPO 森を再生する会」を創立した時に理事として入会をしていただき、ご自身所有の山林を提供していただき私たちの活動が始まりました。初めて間伐に参加したときに、鬱蒼とし暗い山林に分け入ったときに思ったのは、外から見れば木の生い茂った立派な山だと見えたのに、地面には草１本生えていない山肌におどろくばかりでした。戦後の住宅振興で木材不足を解消するため植林をされたそうですが、今では外材に押され手入れをする人がいなくなり、人もいなくなり過疎化が進んでしまったそうです。昔は 30 数軒あった木地師の里で小学校の分校ありましたが現在は 2 軒だけだそうです。

斉藤さんには山での木の切り方、残し方、植林の仕方など多岐に渡り指導していただきました。
また、斉藤さんの夢はここ段戸に、ふるさとの山づくりをしたい、にぎわいを取り戻したいなど多くの夢を語っていただきました。

ここ段戸の山は、間伐をすればいろいろな草木が芽生え、わらび、ぜんまい、ふきのとうとか、なにがしか食べられそうな草木が我先に生えてきます。バラ科の草もたくさん出てきて、気をつけないと手足に傷を付けてしまいます。珍しい名も知らない可憐な花も咲き出します。

こんな豊な自然が残っている段戸です。そんな豊な山で活動でき、夢も膨らむことも出来、元気づけられ斉藤さんの活躍に感謝申し上げます。ありがとうございました。心よりご冥福をお祈り申し上げます。

合掌